

広島県感染症発生動向月報

[広島県感染症予防研究調査会 感染症解析評価部会]
(平成15年5月解析分)

1 疾患別定点情報

定点把握(週報)四類感染症

平成15年4月分(3月31日~4月27日:4週間分)

疾患No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号	疾患No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号
1	インフルエンザ	138	0.29	0.47	↓	12	麻疹	4	0.01	0.23	
2	咽頭結膜熱	31	0.10	0.08	↘	13	流行性耳下腺炎	194	0.65	1.09	↗
3	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	243	0.81	0.70	↘	14	急性出血性結膜炎	5	0.06	0.07	
4	感染性胃腸炎	2,661	8.87	6.10	↘	15	流行性角結膜炎	122	1.45	1.33	↗
5	水痘	599	2.00	1.52	↗	16	急性脳炎	0	0.00	-	
6	手足口病	65	0.22	0.16	↑	17	細菌性髄膜炎	0	-	0.02	
7	伝染性紅斑	74	0.25	0.22	↗	18	無菌性髄膜炎	1	0.01	0.11	
8	突発性発疹	238	0.79	0.69	↗	19	マイコプラズマ肺炎	20	0.24	-	↑
9	百日咳	1	0.00	0.02		20	クラミジア肺炎	0	-	-	
10	風疹	12	0.04	0.04	↗	21	成人麻疹	0	-	-	
11	ヘルパンギーナ	14	0.05	0.08	↗	「過去5年平均」:過去5年間の同時期平均(定点当り)					

急増減	増減	微増減	横ばい
↑	↗	↗	↔
↓	↘	↘	
前月と比較しておおむね1:2以上の増減	前月と比較しておおむね1:1.5~2の増減	前月と比較しておおむね1:1.1~1.5の増減	殆ど増減なし(発生件数少数のものを含む)

定点について

定点情報は、定点把握対象の四類感染症(週報対象21疾患,月報対象7疾患)について、県内187の定点医療機関からの報告を集計して作成しています。

	内科定点	小児科定点	眼科定点	STD 定点	基幹定点	合計
対象疾患 No.	1	1~13	14, 15	22~25	16~21, 26~28	
定点数	44	75	20	27	21	187

この情報は、「<http://www.pref.hiroshima.jp/fukushi/kenkou/kansen/index.html>」のホームページに掲載しています。
全国情報については、「<http://idsc.nih.go.jp>」に掲載されています。
インフルエンザホームページについては、「<http://influenza-mhlw.sfc.wide.ad.jp>」に掲載されています。

定点把握（月報）四類感染症

平成15年4月分（4月1日～4月30日）

疾患 No	疾患名	月間 発生数	定点 当り	過去 5年 平均	発生 記号	疾患 No	疾患名	月間 発生 数	定点 当り	過去 5年 平均	発生 記号
22	性器クラミジア感 染症	46	1.70	1.79	⇨	26	メチシリン耐性黄 色ブドウ球菌感染	114	5.43	-	⇨
23	性器ヘルペスウイ ルス感染症	23	0.85	0.52	⇩	27	ペニシリン耐性肺 炎球菌感染症	60	2.86	-	⇨
24	尖圭コンジローム	12	0.44	0.42	⇩	28	薬剤耐性緑膿菌感 染症	9	0.43	-	
25	淋菌感染症	21	0.78	0.89	⇨	「過去5年平均」：過去5年間の同時期平均 (定点当り)					

インフルエンザ 急減（3月468件 4月138件）
手足口病 急増（3月27件 4月65件）
マイコプラズマ肺炎 急増（3月7件 4月20件）

2 一類・二類・三類感染症及び全数把握四類感染症発生状況

一類・二類・三類感染症 発生なし
全数把握四類感染症 10件発生

（急性ウイルス性肝炎 6件（A型）、梅毒 2件、クロイツフェルト・ヤコブ病 1件
バンコマイシン耐性腸球菌感染症 1件）

3 一般情報

手足口病

手足口病が3月の27件から4月は65件と増加しました。

主な病原体はエンテロウイルスであるコクサッキーA16型とエンテロウイルス71型の2種類のウイルスです。発熱とのかの痛みで始まり発熱から2日後くらいから舌や口腔粘膜、手、足、臀部などに小水疱が多発します。

エンテロウイルス71型によるものは、ときに無菌性髄膜炎や脳炎などを合併し、重症化することがあり、注意が必要です。

急性期が最も感染力が強く、感染者の鼻・のかの排泄物及び糞便との接触か、又は飛沫により感染します。

又、回復後も2～4週間程度は便からウイルスが排泄されることもあります。

マイコプラズマ肺炎

マイコプラズマ肺炎の報告（4月）が20件あり、3月の7件から増加しています。

本疾患は、6～12歳の小児に好発し、飛沫感染を主とした濃厚感染によります。潜伏期間は2～3週間で、咳嗽と発熱を主症状に発病し、中耳炎、胸膜炎、心筋炎、髄膜炎などの合併症を併発する症例も報告されています。

従来は、4年周期でオリンピックのある年に流行を繰り返してきましたが、近年この傾向は崩れつつあるようです。

例年では減少傾向に入る時期ですが、全国的に、2003年の報告数は過去の報告より高く推移しており、注意が必要です。

参考：IDWR通巻第5巻第13号（国立感染症研究所）

重症急性呼吸器症候群（SARS）に関する情報を提供しています。

<http://www.pref.hiroshima.jp/fukushi/hoken/sars/index.html>